

地域・在宅看護論実習Ⅱ（在宅療養を支える看護）

I. 目的

在宅療養を支援する社会資源の実際、地域で療養する対象及び家族を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う。

II. 目標

1. 在宅で療養する対象及び家族の状態やニーズを生活者の視点で理解できる。
2. 在宅で療養する対象及び家族のQOLを考慮した生活の維持・拡大・自立に向けての援助ができる。
3. 在宅で療養する対象及び家族の保健医療福祉サービスの実際が理解できる。
4. 在宅療養における保健医療福祉の連携の実際と連携における看護の役割が理解できる。

※上記の目標を踏まえて、老人保健施設・介護老人福祉施設で学ぶ目標は以下の通りである。

1) 介護老人保健施設・介護老人福祉施設

- (1) 施設を利用する対象を理解できる。
- (2) 施設を利用する対象の日常生活援助が理解できる。
- (3) 施設を利用する対象を取りまく保健医療福祉の連携と看護の役割を理解できる。

III. 実習時期

2年次後期～3年次後期

IV. 実習場所

訪問看護ステーション

介護老人保健施設・介護老人福祉施設

V. 行動目標および学習内容

<訪問看護ステーション>

実習目標	行動目標	学習内容
1. 在宅で療養する対象及び家族の状態やニーズを生活者の視点で理解できる。	1) 対象及び家族の身体的状況について述べられる。 2) 対象及び家族の精神的状況について述べられる。	主疾患、治療、健康障害の程度、ADLの状況、残存機能、合併症の有無、廃用症候群の有無・危険性、医療的援助内容、看護・介護援助内容 在宅療養への思い、人生観、価値観、健康観、認知機能、意欲、感情、生き甲斐、介護上の悩み、困難性、満足感

実習目標	行動目標	学習内容
	3) 対象及び家族の社会的状況について述べられる。	社会・家庭内での役割、生活史、生活様式、生活リズム、生活環境、生活習慣、保健行動、家族構成、介護力（主介護者、家族の協力体制）、利用者と家族の関係、役割の変化、健康状態、経済状況、社会資源の活用状況
2. 在宅で療養する対象及び家族のQOLを考慮した生活の維持・拡大・自立に向けての援助ができる。	<p>1) 対象の生活習慣や生活様式に応じた日常生活援助ができる。</p> <p>2) 対象のADLに応じた日常生活援助を安全・安楽を考慮してできる。</p> <p>3) 対象の治療・処置に伴う自己管理方法について述べられる。</p> <p>4) 在宅療養を支える家族への支援が述べられる。</p>	<p>対象の価値観の尊重、物品配置の意味</p> <p>対象の生活習慣や生活様式（生活環境）の尊重、訪問時間の調整、訪問時のケア内容</p> <p>節度ある態度、身だしなみ、言葉遣い、時間管理、訪問目的、面接技術</p> <p>生活の場における援助の工夫、物品の工夫、感染予防、医療事故防止</p> <p>セルフケア能力を引き出す援助、社会資源活用のための助言</p> <p>在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、CAPD療法、ストーマケア、褥瘡ケア、在宅中心静脈栄養、胃ろうの管理、気管切開の管理、在宅自己注射</p> <p>対象者・家族が望む生き方や生活様式の尊重、家族の問題解決能力の向上</p>
3. 在宅で療養する対象及び家族の保健医療福祉サービスの実際が理解できる。	1) 対象が利用している社会資源とその法的根拠が述べられる。	<p>保健師助産師看護師法、介護保険法、医療法、地域保健法、高齢者の医療の確保に関する法律、障害者総合支援法、身体障害者福祉法</p> <p>相談サービス、訪問型サービス、通所型サービス、入院・入所、日常生活用具の利用、住宅改修、緊急連絡システム</p>

実習目標	行動目標	学習内容
4. 在宅療養における保健医療福祉の連携の実際と連携における看護の役割が理解できる。	1) 在宅看護の特性が述べられる。 2) 対象を取り巻く関連職種とその役割が述べられる。 3) 保健医療福祉チームの連携の実際について述べられる。 4) 保健医療福祉の連携における看護の役割が述べられる。	対象者、対象者の主体性、家族の役割、看護の内容、看護職と関わる時間、看護の頻度・期間、看護の責任、看護の効率性、看護に必要な物品、緊急時の対応、医師との関係 関係職種、それぞれの職種の役割 連携の方法、社会資源活用のプロセス 看護師の役割、訪問看護ステーションの機能・役割、ケアマネジメント、看護師としての自立・責任

<介護老人保健施設・介護老人福祉施設>

実習目標	行動目標	学習内容
1. 施設を利用する対象を理解できる。	1) 対象の身体的・精神的・社会的状況が述べられる。 2) 対象の生活環境が述べられる。	身体的・精神的・社会的状況 利用している施設の構造、生活環境、生活習慣
2. 施設を利用する対象の日常生活援助が理解できる。	1) 対象に応じた日常生活援助が述べられる。	環境調整、移動、食事、清潔、衣生活、排泄、活動、休息など
3. 施設を利用する対象を取りまく保健医療福祉の連携と看護の役割を理解できる。	1) 保健医療福祉サービスの実際について述べられる。 2) 施設内での各職種の役割と連携における看護の役割について述べられる。	利用している施設の機能・役割、介護保険制度、連携の方法 保健師助産師看護師法、看護師の役割、関係職種